教員おすすめ図書コーナー推薦書

教　員　氏　名 矢野　修一　先生	おすすめメッセージ
１　図書名：『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 著　者：ブレイディみかこ 出版社：新潮社　　ＩSBN：978-4-10-352681-0	「地べた」からの著者のエッセーは、どれもこれも面白い。ノンフィクション部門で各種の賞を受賞した本書も期待を裏切らない。息子の学ぶ中学校の様子、教師や保護者、友人とのやりとり、日常を巧みな筆致で描き、階級格差、民族差別ありありのイギリスの現実を私たちに伝えるとともに、「ダイバーシティ」や「多事争論」の意味・意義を問うている。「親子の成長物語」という評価に間違いはないけれど、「学校」の可能性を感じさせてくれるし、白人労働者のオッサン連中へのまなざし、生態描写も好きだ。
２　図書名：『人新世の「資本論」』 著　者：斎藤幸平 出版社：集英社新書　　ＩSBN：978-4-08-721135-1	世の中、SDGs（持続可能な開発目標）ばやりである。『日本経済新聞』はじめブルジョア各紙でも、関連記事が載らない日はない。今やSDGs は資本主義のニューフロンティアの扱いだ。でも、立派な目標を本気で実現しようとするなら、「資本主義」そのものを問い直す必要があるのではないか。著者は晩期マルクスの到達した「脱成長のコミュニズム」に気候変動や文明崩壊の危機克服の方途を見出す。SDGs というアヘンにやられ、思考停止に陥る前に、まずは本書に目を通してみよう。いきなりの体制選択論ではビビる？「脱成長コミュニズム」を導く具体的戦略・戦術はどうする？　いろいろなことは、本書を読んでから考えよう。
３　図書名：『パンデミック後の世界 10 の教訓』 著　者：ファリード・ザカリア 出版社：日本経済新聞出版　　ＩSBN：978-4-532-35863-1	COVID-19 のパンデミックは、現代世界の抱える問題を可視化した。パンデミックによって社会の変化は加速されるかもしれないが、規模や方向性があらかじめ決まっているわけではない。可視化された諸問題、生じつつある変化に私たちがどう対処するかによって、今後の展開は大きく変わる。 現実主義者たる著者の改革アジェンダは、けっして「革命的」ではないが、これまでの人類の到達点を冷静に評価し、「リベラルな国際秩序」の再興を促す。「運命」は決まってなどいない。何を「選択」するかという「政治的意思」こそ重要という姿勢を共有したい。